

**横田基地問題
を考える会**

ニュースNo. 69

連絡先
電話&FAX 042-531-4471
ホームページ アドレス
Yokota-peace.sunnyday.jp

ミサイル基地の最前線に 置かれる石垣島を訪れて

棟棠 浄

(ついでとぅ きよし)

(横田基地公害訴訟原告団事務局、郵政シルバーユニオン事務局)



6月の19日から23日、石垣島と沖縄島に行ってきました。梅雨が明けエメラルドグリーンに輝く海を見ながらのツアーでしたが、情勢と向き合うシ

ビアな現実とも向き合うことが出来ました。このツアー、オール郵政沖縄連帯ツアーとして今回で19回目となります。私が事務局を務める郵政

退職者組合(シルバーユニオン)が呼びかけ、現役はもとより家族友人を誘い毎年3〜4回連帯行動を続けています。2016年辺野古新基地建設が本格化し高江のオスプレイヘリパット建設が強行される頃からの行動です。今回はアィム89(西多摩教組)女性部・Aの会とのコラボで8名のツアー。

6月19日に石垣島に入り、元同僚(神奈川で郵政労働者として活動、退職後実家に帰り農業を志す)で石垣基地建設に反対し続けている仲間の事前レクチャーを受け、翌日、彼のガイドで北朝鮮軍事偵察衛星対策と称するPAC3ミサイルが三基、緊急配備された南ぬ島(ばいぬしま)周辺をフィールドワーク。ここは観光客で賑わう離島ターミナルから目と鼻の先。17万トンの超大型クルーズ船が5000名のツアー客を乗せて接岸する場所。しかも無防備?至近距離にPAC3が置かれているすぐ向か



県庁前広場集会

いに海水浴客らに無料開放の人工ビーチが広がっている。石垣市長は「安全が確保され支障なし」と配備を承認している!午後からはミサイル弾薬が配備された石垣駐屯地に出向き、基地司令に対し「琉球弧の軍事要塞化に反対し石垣からミサイルを撤去すること」など抗議・申し入れを行う。陸自立川や空自入間基地と同様、銃を携帯した広報担当等(若い女性も)が愛想よく対応する。

21日沖縄島にわた

り、翌日辺野古新基地建設現場と土砂搬出現場安和・塩川のフィールドワーク、この日は岸田来沖警備のため工事は中止、ゲート前積み出しの攻防は「不戦勝」でした。夕方緊急に県庁前

広場で開かれたオール沖縄会議呼びかけの辺野古新基地建設断念請願署名56万筆が国会で審議なしで葬られたことに対するオキナワの怒りの集会にも参加。翌23日は「沖縄慰霊の日」岸田首相警備のために全国から動員された警備機動隊にあふれ平和祈念公園は異常な状況、誰の何のための「慰霊の日」だ!! 私たちは「魂の塔」横の広場で開催された国際反戦沖縄集会に参加、ミャンマー、韓国の反戦団体からのアピールもありました。ツアーはその日の夕方、帰路につきました。

毎回毎回実り多い貴重な経験ができる沖縄連帯ツアーですが、少しでもオスプレイ反対、横田基地撤去行動と連動できる運動にしたいものです。



石垣駐屯地

ポリリーヌとマーガレット 有名だけと無名の女たち

小林 緑

(元NHK経営委員・
国立音学大学名誉教授)



地元の方々による切実
感きわまる「横田基地問題
を考える会」の運動に、い
つも感嘆するばかりでし
た。そんな私にニュース原
稿を書くよう提案頂いた
のは、実働の女性メンバ
ーのお付き合ひのおかげ
です。ありがとうございます
す！

女性問題に気付き始め
た1980年ころ行き会
った『最後の植民地』(新潮
社、1979)。女性作曲家

無視の淵源がどこに？と
うすうす感じていた身に
は、ETV特集『赤い靴を
履いてー作家・有吉和子』
(2023/6/4)はなんとも
衝撃的でした。番組に登場し
た共訳者のフランス女性
が、ブノワト・ブルー(19
20-2016)のベスト・セ
ラー『女はかくあれ』(19
75)を知った有吉が、即、
翻訳を提案、訳題も提案し
た、と打ち明けたからです。
有吉といえば、『複合汚
染』『恍惚の人』。もっぱら
社会派の作家(1931-84)
だし、文系のフェミニズム
とは縁遠いと思ひ込んで
いました。ところが、どこ
かの未開地ではなく、女と
いう存在が、最後の植民地
なのだど喝破した原著の
意義を捉え、訳題とした有
吉の慧眼は、すごい！久し
ぶりに大興奮、舞い上がり

ました。
加えて、社会問題の不正
を暴くのは当たり前、美術
文芸では女性差別の論議
は熱いのに、21世紀も4
半世紀のいま、この国では
クララ・シューマンをアリ
バイがわりに取り上げて
自己満足ークラシック音
楽界こそ、「最後の、そのま
た最後の植民地」のままじ
ゃんと苛立つ私に
“FESTIVAL UN
TEMPS POUR ELLES”
のお知らせ(4月25日、
contact@elleswomencompos
ers.com)が届いたので、
無理に訳せば「女性音楽
家が輝くとき」となります
が、なんと、パリ近郷の歴
史的建造物8つを舞台に、
100人超の演奏家、14
のコンサートで50人の
女性作曲家を取り上げる
とか(6/10-9)！腸の不
具合に悩まされ、姉妹間で
の実家解体・売却問題で半
狂乱状態だった私は、参観
は叶わず、添付メールの細
かいプログラムを読むだ
け、遺書代わりに活用で
きるこの意気込みは、あえ

なく萎んでしまいました
が：とにかく前代未聞の
壮大なプロジェクトが目
白押し、フランスではもう
女性は最後の植民地では
ない？反して日本は…

有吉がETVのタイトル
にあるような赤い靴を履
いて踊ったかどうか、わか
りませんけれど、でも踊り、
歌、楽器、見栄え、衣装な
ど、女の領分とされる事柄
を取り入れてこそ、環境、
差別、医療など、植民地政
策などの社会改革も進む
はず、と考えます。

ところで『アダム・スミ
スの夕食を作ったのは誰
か？』という本をご存知で
しょうか。私も全く知らず
にいたのですが、この春よ
うやく出版できた拙著『ポ
リーヌに魅せられて』(20
23、梨の木舎)に寄せられ
た感想文に、上記の訳書
(河出書房新社、2021)が
引用されていたのです。ち
なみに拙著のタイトルに
ある「ポリリーヌ」とは、ポ
リーヌ・ガルシア・ヴィア

ルド(1821-1912)のこ
と。オペラ女優と讃えられ
全欧のめぐり、作曲家、ピ
アニスト、教育者、肖像画
家としても傑出、シヨルジ
ユ・サンド、シヨパン、ツ
ルゲーネフなど名だたる
同時代者たちを魅了した
女性音楽家でした。

「歌といえば美空ひば
りの私、オペラの世界とは
縁遠いのですが：ポリリー
ヌは恵まれた才能を各方
面で開花させ、可能性に満
ちた時代を力強く牽引し
た人：その活動が制約と
の闘いであったことを、1
56頁の絵が表していま
すね」。拙著へのお手紙を
抜粋してご紹介しました
が、まずその問題の絵を、
よおーくご覧ください「図
版」：

出典はフランスの「女性
と音楽協会」が2006年
に刊行した冊子。その裏表
紙にこの絵が使われてい
るのですが、「女子リセ」職
業高校における「アノ教
育」とのタイトルの下に小

横田基地のPFAS調査を 阻む日米安保と地位協定

砂山 洋一

(東村山革新懇)



多摩地域のPFAS 地下浸透は死活問題

私の住む東村山市は、米軍横田基地から10キロ圏内の自治体です。多摩地域の深刻な問題になっていく「PFAS問題」では具体的な動きは聞いていません。そのようななか、昨年11月25日には「有機フッ素化合物(PFAS)から市民の生命を守る連

絡会」が防衛大臣に「今回の血中濃度の分析結果、汚染源だと強く疑われる米軍基地立ち入り調査について、防衛相は必要であると認識しているか」「汚染源を解明するために、沖縄県は基地周辺の土壌調査・ボーリング調査に着手したが、国は沖縄県と協力して基地内外に置いて、より精緻な調査を実施しないか」と質問している。

2023年1月31

日の東京新聞は、「東京多摩地域の住民を対象とした有機フッ素化合物の血液検査の中間報告は、多くの住民の将来の健康への影響が懸念される結果となった。国は新たな規制の議論を続けるが、知見が少ないとして即座に強化することには消極的だ。識者からは『海外の例を参考に先回りして対策すべき』との記事を「PFAS規制 知見不足、腰重く」との見出しできびしい指摘をした。

多摩地域では、87人のうち約24%に当たる21人が指標地を上回り、沖縄地域の調査結果よりも事態は深刻だと指摘、記事は「健康影響の懸念から、欧米では規制強化のうごきが強まる。米環境保護庁は昨年6月目標値で水道水1リットルあたりのPFASは0.02ナノグラム以下、PSOA は0.004ナノグラム以下とする新基準を発表。米疾病対策センターなどは、①免疫力低下、②脂質代謝異常、③胎児や子どもの発育障害、④腎がんの4項目で悪影響を及ぼす十分な根拠があるとした」とまとめている。この記事に関連して小池百合子知事は、住民団体が求める東

京都主体の血液検査には、「国とも連携し、都民の健康と安全を守るために適切に対応する」としたが、国の調査は27年度までの予定で、「調査対象に 都民はふくまれない」無責任なやり方にはふれない説明でにげている。都民のいのちを守る具体策は示さない。

米軍横田基地周辺など多摩地域の地下水や水道水から、発がん性や免疫抑制など「健康影響が指摘される有機フッ素化合物(PFAS)が検出」されている問題で日本共産党がの月26日、防衛相の担当者が米軍横田基地で2010年から2012年にPFASの漏出が3件あったことを認めたと公表した。PFASを含む泡消火剤の横田基地での使用について、防衛、外務、環境などの各省への聞き取りで、防衛相が漏出量につ

いて「米軍側から確認がとれていない」と無責任な回答をしているが、東村山市や市民的とりくみは見えてこない現状が重い。

このような現状は「横田基地をなくす課題」が喫緊の課題になっていることをしめしてはいないか。横田基地調査に立ちはだかる日米安保条約、日米地位協定が「安全に暮らすことを保障する憲法を超えている現実」をどのように変えていくのかがとわれている。切歯扼腕では事態は変わらない。

2022年2月24日ロシアが国連憲章を蹂躪してウクライナ侵略以降の変化

ロシアのウクライナ侵略からの大きな変化は、テレビ朝・TBS/NHKなどのメディアに解説

(5ページ下段へ)

短歌

WBC平和を願い春うらら

和子



竿伸ばし枇杷の実採りし夕べかな

ますみ

アナベル（白あじさい）がダンスしてると真似する子

智恵子

（広島忌）風入れ名薄死者も耳欹てて

たかね

水族館のイワシの群れに遅れあり

良絵



員として防衛省防衛研究室の高橋彬雄室長はじめ兵頭真治研究主幹などが当然の顔をしてテレビに映る。防衛省防衛研究室は、防衛省職員だ。政府のバイアスがかかるコメントでしたり顔で解説する。高橋室長は、「アメリカの戦争に日本がまきこまれることはない」と平然と言っている。

テレビで解説もどきの説明をしている。

昨今は、マスメディアの多くが「批判する矜持」をなくしている。「多摩地域のPFAS問題」で気を吐いているのは東京新聞と赤旗くらいだ。南西諸島への「自衛隊ミサイル基地建設問題」では、東京新聞、赤旗新聞、沖縄の地方紙2紙くらいで、問題の本質を掘り下げて記事をつくるスタイルが投げすてられている現状は悲しすぎる。メディアのおおくの幹部が、平然と時の総理と会食している状況は、世界的にも「異常事態」だ。このような報道機関が日本全体を支配しているから「ものいうコメントイター」が消されていく「現実」に暗澹としてしまう。

横田基地関連情報

米軍PFAS漏

出認める

多摩地域の水源井戸や水道から高濃度の有機フッ素化合物PFASが検出された問題で、この間米軍横田基地での消火訓練に使われてきたPFASを含む泡消火剤が疑われていましたが、7月になり米軍は基地内でPFAS漏れ事故があったことを初めて認めました。多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会が行った多摩地域650人の血



横田基地の消火訓練用模擬機

液検査では、半数以上の方から米指標値を上回るPFASが検出され、横田基地由来のPFASによつて水道水が汚染されていた疑いが

限りなく濃くなつていました。米軍が認めた以上基地内の土壌や地下水の調査を米側に強く求めていく必要があります。この問題では防衛省が2019年には米側から漏れ事故の報告を受けていたにもかかわらず、その事実を隠ぺいしていたことは許されません。

オスプレイ

超低空飛行

米海兵隊のMV22オスプレイが国内の山岳地帯で行う低空飛行訓練の最低高度を現行の150mから60mに下げること



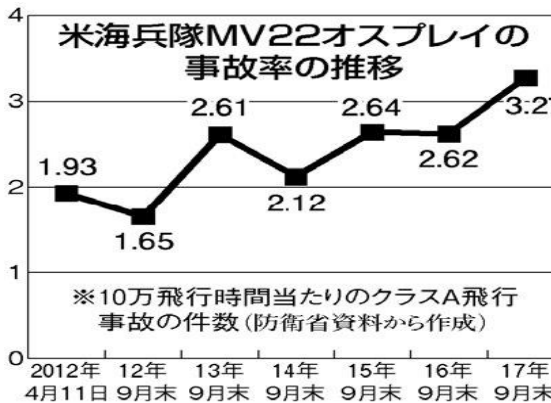
オスプレイ低空飛行

とが日米合同委員会で合意されました。日本の航空法を無視した最低高度60mは山岳地帯といえどもあまりにも危険すぎます。米軍は普天間基地のMV22に限定するとしていますが、横田基地のCV22に適用したり、住宅地でも低空飛行したりする危険があります。欠陥機オスプレイの低空飛行訓練は絶対に認められません。

オスプレイ墜落クラッチの不具合が原因

昨年6月米カリフォルニアで墜落し、5人が死亡したMV22の事故原因が、ハードクラッチ工

ンゲージメントの不具合だったことを米海兵隊が結論付けました。この事故後、陸自V22も飛行を停止しましたが原因を究明しないまま飛行を再開し立川基地にも飛来しています。構造的欠陥を抱えたまま日本の住宅地上空を低空で飛行させることはあまりにも危険です。米軍オスプレイも陸自オスプレイも配備を撤回すべきです。



横田基地公害訴訟第1回弁論



入廷する原告団

米軍横田基地の航空機の騒音で健康被害を受けたとして住民240人が国を相手取り、夜間、早朝の飛行差し止めと2億2千万円の損害賠償を求め「横田基地公害訴訟」の第1回口頭弁論が8月21日(月)東京地裁立川支部101号法廷で行われました。当日は100名以上の傍聴者が詰めかけ傍聴席がいっぱいの中で団長の福本さん、棟棠さん谷口さんが意見陳述を行いました。